
初/カカシカ

深海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初／カカシカ

【Nコード】

N6855A

【作者名】

深海

【あらすじ】

カカシの恋人はずいぶん年下のシカマル。

「遅いな……」

いつもナルトたちを待たせてた俺が、今日は待たされてそわそわしている。待ち人はシカマル。ずいぶん年下だけど、俺の恋人。今日は初めて二人の休みが合ったから、初めて外に出かける。デートってやつ。

あ、この気配はやつと来たみたい。シカマルがノックする前に扉を開けると、まだ眠そうなシカマル。

「おーっす……」

外は快晴とまではいかないけど、わりといい天気。

「何ニヤニヤしてんだよ気色悪い……」

「酷いなあシカマルとデート出来るのが嬉しいんじゃない」

年甲斐もなく浮き立つ自分がいる。

シカマルが横に並んで歩いているだけで、幸せな気持ちになる。

「どこ行くんだ？」

「んーシカマルの行きたいところでいいよ」

「じゃあ公園」

言うと思ったよ。俺たちは、俺の家から五分程度歩いたところにある公園に向かった。こんな近所でも初デートには代わりはない……よね？

公園に着いた途端、芝生に寝転がるシカマル。

「あー……眠くなるな」

「さっき起きてきたばかりでしょ」

「成長期だからな寝る程育つんだよ」

遊具がある公園のメインから奥に入ったところにあるここは、木に囲まれていて二人しかない。まあ、子供の笑い声とか聞こえてくるんだけどね。

「そのまま育たなくていいのにとずっと可愛いままのシカマルでいいじゃない」

俺もシカマルの隣に寝転んだ。ひんやりとしたが草が気持ちいい。こんな風にするのはいつぶりかな。

「俺は成長しないと困るぜ」

「何で？」

ごろりと体勢を変えたシカマルが頬杖をついて俺を見る。

「ただでさえ年下つてのにアンタより小さいままじゃ威厳がねーだろ」

威厳だなんて、シカマルって今時の子にしては古臭い。

それもシカマルのいいところだけど。俺、尻に敷かれるかもね。

シカマルが成長しきった姿を想像していると、シカマルが俺に覆い被さった。

「ん？どうした？」

「こういうことしても格好つかねーし……」

そう言って下りてきたシカマルの顔。俺たちは初めて唇を重ねた。

「ねえこれって逆じゃない？俺がシカマルに覆い被さるべきだと思うんだけど……」

「覆い被されるなんて勘弁これでいいんだよだから俺は成長しねーとな」

これから何回目のデートでシカマルは俺より大きくなるんだろうね。立場が入れ代わってるような気がするのをおいておいて、ちょっと楽しみだな。

f i n

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6855a/>

初/カカシカ

2010年10月14日12時10分発行